

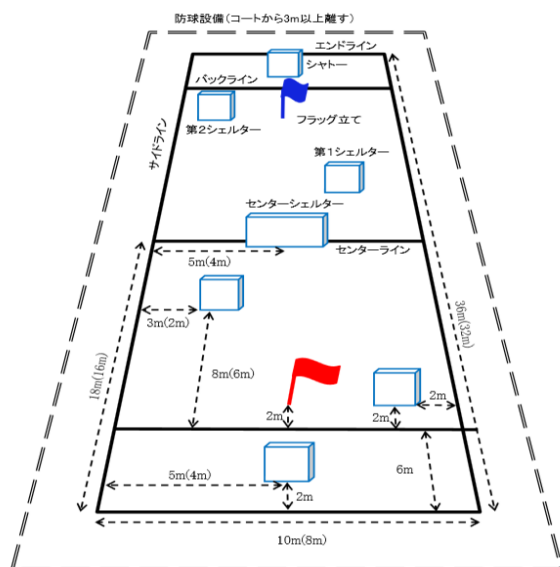
左右のあれこれ

Position

野球でライト、レフトといえは外野の1塁側と3塁側を指しますが、野球規則上にこの表記はありません。右翼手などのポジション名は、もっぱら守備の戦術上便宜的に用いている表記なのです。大谷選手に対する極端なシフトなど自由にポジション変更していますよね。

実際、野球規則では投手と捕手を除いた7人はどこで守ってもよいことになっています。投手は投手板(プレート)を踏んでいる時が投手であり、捕手は「投手が投球するまでキャッチャースボックスにいななければならない」が、投手の手をボールが離れた時点からは両者ともどこでプレーをしても良いのです。

右バッターボックスというのも規則上の表記はありません、通称です。位置はいわゆるレフト側にあるのに、右利きの打者が入るので右バッターボックスというのでは定義としてはイマイチですよ。大谷選手のように右投げ左打ちという場合もありますので。



しかし、雪合戦は例外的にプレイヤーの位置に制限があります。国際雪合戦ルールでは、フィールドプレイヤーは、フォワード4名、ボックス3名の7名と決められています。フォワードは自陣側エンドラインまでの途中にあるバックラインより後方に戻ることができません。攻撃用の雪玉は自陣エンドライン前のシャトー裏にセットしてあるので、これを取りには行けないというルールです。つまり、ボックスの補給なしには孤立してしま

います。雪玉を転がすか、相手の攻撃をかわしながら届けるのです。兵站(ロジ)が重要な戦術になるという興味深い競技です。

プレイヤーはシェルターに隠れながら攻撃するため、投球するときには最低でも腕と頭が出てしまいます。右利きだとしても右側面からになります。相手はそのタイミングを予測して攻撃することになります。ところが、練習を重ねて、左右どちらの手でも、つまりシェルターの左右の側面を変えながらの攻撃が可能な猛者が現れ、ここにも二刀流がいるのです。

Master Eye

利き目というのをご存じでしょうか。手(左右どちらでも)をまっすぐ伸ばして、人差し指を立て、遠くの目印を両目で見つめます。次に、左目を閉じてもほとんど視野に変化がなく、右目を閉じたとき見え方が変化したならば、あなたの利き目は右目です。

射撃やアーチェリーを始めるときには、まずこの確認をします。利き手よりも利き目の方を優先して銃やボウの持ち方を決めます。ただし、弓道では弓は必ず左手に持つこととされているそうです。

私の勝手な仮説ですが、野球の場合も、右投げでも利き目が左ならば、いわゆる左バッターボックスで打つ方が良いのだと思います。ホームベース寄りの利き目でバットとボールの接点をとらえることができるからです。

イチロー選手や大谷選手はきっと左目が利き目なのではないかと思うのですが・・・。

鉄道の改札機でICカードをタッチする読み取り機はすべてが右にあります。右利きの私が左手で試すと違和感があるのですが、左利きの皆さんはどうなのでしょう。やはり、左側にタッチできれば楽でしょうね。

改札機が磁気式カードからICカードに転換した際、その製造コストは格段に下がっています。メカニカルな部分がアンテナに代わるので、メンテナンスコストまで含めると相当な額になります。このタイミングを逃さず、左右に読み取り機をつけるチャンスなのではと思い、某改札機メーカーにお聞きしたところ、試作機は作って、各鉄道会社にはお見せしたけれども、反応は薄かったということでした。時は正にホームドア設置という大投資が控えていましたから、そこまで手が回らないですね。

Clockwise

ベースランニングは左回りで、多くの選手の利き足が右なので左回りの方が効率良く走れるということらしいです。陸上競技のトラックも同じことのようにですが、1896年開催の第1回オリンピックアテネ大会から第3回までは右回りだったそうです。

また、今でも競馬では右回りのコースもあります。馬の場合の利き足というのは寡聞にして存じません。

時計の針が右回りなので、左回りのことを「反時計回り」と表現することがあります。数学で角度を表すとき、X軸(左から右)からY軸(下から上)に向けて左回りを正の向きとしているので、正の角度が「反時計回り」と書かれています。陸上トラック競技も「反時計回り」で走ると説明されています。

多くの文明が北半球から生まれ、そこで使われた日時計の影の動きが北半球のゆえに右回りになることから、時計が機械式になった時にも針が右回りとなったのは自然です。しかし、物事のルールや定義に「反」を持ち出すのはなんとなく気持ちが悪いですね。電流は電子の流れの「反対」向きです、というのも。

自動車の場合、日本、イギリスは左側通行、アメリカ、フランスは右側通行とバラバラです。各国の鉄道はといえば、ほぼ自動車と同じ側を走りますが、フランスの鉄道は左側通行ということで二刀流です。

ここで、鉄道の環状線の話です。日本では左側通行なので「内回り(inner loop)」が「反時計回り」ですが、外国の方には向きを勘違いする方がいるかもしれません。そこで、札幌市電の停留所での英語アナウンスは

「Streetcar is coming soon. This service is an inner-loop streetcar
running counter-clockwise for Susukino」

と親切に言い換えています。

ちなみに、東京の山手線のホームでは内回りを女性の声で、外回りを男性の声でアナウンスしています。

Selfie

温暖化が進んだためか、最近はクールビズ期間以外でもネクタイをしないことが多くなりましたが、久しぶりに締めると気持ちが引き締まります。

ネクタイの柄でよく見るのが斜めストライプです。起源はイギリスの軍隊で、連隊ごとに異なる色の組み合わせで隊旗のように着用したとのこと(regimental tie)。左肩から右の腰へ斜めに掛けたベルトの先に銃を収めたため、ネクタイのストライプはベルトと柄がクロスしてバツにならないように、つまりネクタイ柄は、正面から見ると右上から左下への斜めになったそうです。これをアメリカでファッションとして売り出そうとした某社はオリジナリティを持たすため、左右を逆転した右下下がりデザインにしたそうです。

スマホで自撮りをした画像は、鏡に映ったように左右が反転しています(厳密には反転しているのは左右ではなく前後だという話はここでは置いておきます)。自分で気が付きにくいのは、見慣れた自分の姿は、誰かに撮ってもらった写真よりも、鏡の中だからでしょうね。今日も鏡の前でネクタイを締めながら、ストライプは「欧米か?」。自撮りの場合、背景に時計やカレンダーを入れずに、アップで撮りましょう。

私は、夕方からは左利きになります。